

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p>◆生徒の就労を通じた潤いのある社会的自立の実現をしっかりと支援する学校</p> <p>◆生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、より適切で効果的な指導・支援をするために進化する学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の一人ひとりの卒業後をみすえ、地域、関係機関等との連携のもと、本校の実践と成果を広く社会に還元する。</li> <li>・社会の変化や企業ニーズ等をふまえつつ、生徒の自己選択の力を育成するなど、継続性を見すえた社会参加（就労）を実現する。</li> <li>・社会の変化や多様性に迅速に対応するため、柔軟で機動力を備えた職員集団となるよう継続的に組織体制を検証し、改善する。</li> </ul>
--

### 2 中期的目標

<p>1 積極的な校外への取組みや地域、関係機関との連携・交流の充実</p> <p>(1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する。</p> <p>(2) 高等支援学校や高校及び共生推進教室設置校との連携や交流機会を拡大する。</p> <p>(3) 地域との協同による「たまがわランド」や「たまがわフェスティバル」等を計画的に運営し、地域に愛される学校をめざす。</p> <p>2 より適切で効果的なマッチングを基本とした進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見すえた教育活動の充実</p> <p>(1) 生徒一人ひとりのニーズ及び新たな職域開拓による就労率の維持、向上を図るとともに、離職率5%以内を継続するなど、関係機関との連携による卒業生の就労継続支援を充実する。</p> <p>(2) 「主体的・対話的な深い学び」及びオンライン授業をはじめとするICTや1人1台端末を活用した授業づくりに取り組むなど、生徒のキャリア発達につながる支援教育の充実を図る。</p> <p>(3) キャリア発達支援の観点を重視し、生徒の卒業後を見すえ、自立活動をはじめとする個に応じた指導・支援体制を構築する。</p> <p>3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進</p> <p>(1) 関係機関との連携のさらなる充実、教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成する。</p> <p>(2) 今後10年に向けた新たな教育カリキュラムの検討をはじめ、改善を進めることにより組織の活性化を図る。</p> <p>(3) 校務の効率化を図り、業務負担の不公平感の是正に向けたルール作成や組織づくりを推進する。</p>
--

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 積極的な校外への取組みや地域、関係機関との連携・交流の充実	<p>(1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する。</p> <p>(2) 他校との連携・交流・支援</p> <p>(3) 地域に根ざした学校教育活動の充実</p>	<p>(1) ア 障がい者就業・生活支援センターやハローワーク等の関係外部機関との連携 イ SSWを活用し、各福祉関係機関等と連携を取っていく</p> <p>(2) ア 共生推進教室設置校と、生徒間、教職員間の交流の機会を充実する イ 府立支援学校教務研究会事務局として教務研の活動充実に努める</p> <p>(3) ア 「たまがわランド」やマルシェ等の運営を計画的に進め、生徒と関係機関や地域とのかかわりを増やす。 イ 地域の支援学級、支援学校への情報提供を新たなスタンスで構築していく</p>	<p>(1) ア 各機関との懇談会等を開催方法の工夫も加えのべ35機関 [28機関] イ ・年度初め、教職員に「エコマップ」「ジェノグラム」の活用を周知する。 ・中学校との引継ぎにおける聞き取り項目に新規項目を設け、SSWとの情報共有の精度を上げる。</p> <p>(2) ア 昨年度試行した職業学科における物品販売等の交流や生徒会との連携などの新しい取り組みを2回以上実施 イ 出来ていなかった地区別のブロック会議を1回以上実施する</p> <p>(3) ア 「たまがわランド」などの物品販売を学校内だけでなく、外部施設との連携や移動販売等新たな取り組みを始める イ 当日参加できない希望者へも Web 利用などで参加できる仕組みの構築に取り組む</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 適切なマッチングを基本とした進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見据えた教育活動の充実</p>	<p>(1) 就職率の維持及び定着率の向上。</p> <p>(2) 確かな学力の育成</p> <p>(3) キャリア教育（キャリア発達支援）及び発達支援の視点を柱とした自立活動の充実</p> <p>(4) 生徒会活動など生徒主体の活動の充実</p>	<p>(1) ア 高校卒業求人など、幅広く求人情報を収集し、新規実習及び新規就労受入れ事業所開拓 イ 卒業後のアフターフォロー体制を改善・充実する</p> <p>(2) ICT 機器を活用した授業充実に向けた環境整備の推進。</p> <p>(3) ア キャリアプランニングマトリックス（試行）により生徒のキャリア発達のアセスメントと本人へのフィードバックを行う。 イ アセスメントの観点を重視した自立活動の推進と充実 ウ 規則正しい生活習慣の定着を改めて推進する。</p> <p>(4) 生徒の主体性を育成し、委員会活動等を活性化する</p>	<p>(1) ア 新規実習及び就労受け入れ事業所 50 社以上を開拓 [45 社] イ 1 年後の離職者の割合が 10%以内をめざす。 [12.5%]</p> <p>(2) ・1 人 1 台端末を活用した授業が年度末に 5 割以上となることをめざす ・電子黒板機能付きプロジェクター設置教室を 1 室以上整備する。</p> <p>(3) ア キャリアプランニングマトリックスの試行実施を行い、実施方法や生徒へのフィードバック方法を改善・検討する。 イ 認知機能トレーニング（コグトレ）等の発達支援の観点をふまえた自立活動を集団プログラムから個人プログラムへ近づける取り組みを試行する。 ウ 遅刻指導を重点課題とし、昨年の延べ遅刻者数を 1 割以上減らしていく。</p> <p>(4) 本校生徒と地域の施設（高齢者施設やこども園など）と新たな交流機会を 1 回以上計画実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p> <p>(4)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進</p>	<p>(1) 校内研修の充実</p> <p>(2) 教科・分掌横断的な取組みの充実</p> <p>(3) ワークライフ・バランスの追求</p>	<p>(1) ア 支援教育の専門性、学習指導要領の内容をふまえた計画的・効果的な研修の実施 イ 人権に関する校内研修の充実を図る</p> <p>(2) ア 他教科の授業工夫の観覧のため相互授業参観の徹底 イ 今後 10 年を見据えた新しい教育カリキュラムの検討や現在の課題を洗い出す。</p> <p>(3) 全校一斉退庁日の更なる取り組みの推進や業務の精選を議論し、昨年度コロナ禍で増加した時間外勤務の減少に繋げる。</p>	<p>(1) ア 教員向け研修を 24 回以上計画実施する [19 回] イ 外部講師（専門家や当事者）招聘など、今までにない形式の人権研修に取り組む。</p> <p>(2) ア 教員授業相互見学の充実。1 人 2.2 回以上見学する [1.69 回] イ 課題解決のための委員会を立上げ、時間割を含めた改善提案を 1 つ以上提案する。</p> <p>(3) ・全校一斉退庁日を毎週水曜以外に月 1 回以上増やし、定着させる。 ・一人当たりの時間外勤務の年間平均時間が、支援学校全体の一人当たり年間平均時間を下回るように取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>